
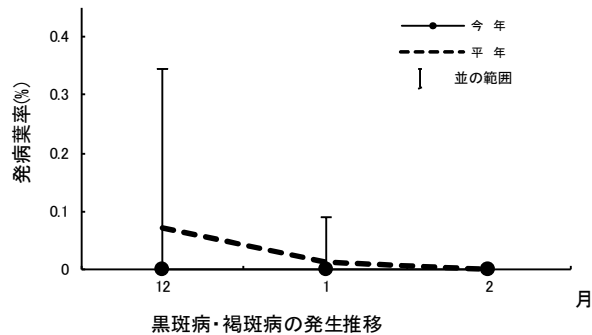


作物	小ギク(彼岸出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	黒斑病・褐斑病		
2月の発生量(現況)	(発生なし)並		
3月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	今後1か月の降水量が平年並の見通しから、2月と同程度の発生量と考えられる。		

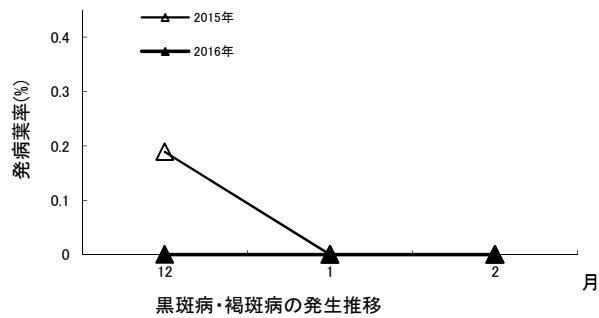
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 2月中旬の調査の結果、発病葉率は0% (前年0%、平年0%) と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

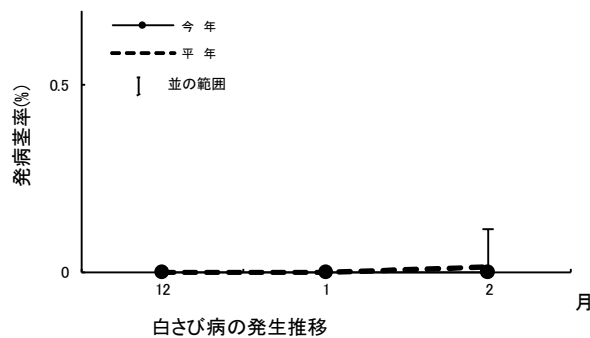
- ・ 発病葉や摘葉等による残渣は発生源となるため、ビニール袋に入れるなどして早めにほ場外に持ち出し処分する。
- ・ 除草などにより、ほ場の通風をよくする。
- ・ 水滴の跳ね上がりを防止するため、敷草を行う。

作物	小ギク(彼岸出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	白さび病		
2月の発生量(現況)	(発生なし)並		
3月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	今後1か月の降水量が平年並の見通しから、2月と同程度の発生量と考えられる。		

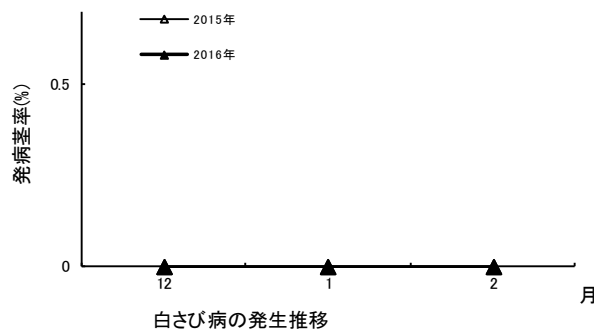
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 2月中旬の調査の結果、発病率は0% (前年0%、平年0.02%) と平年並であった。
- ・ 防除員によると沖縄本島北部及び久米島の一部ほ場で発生が確認された。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

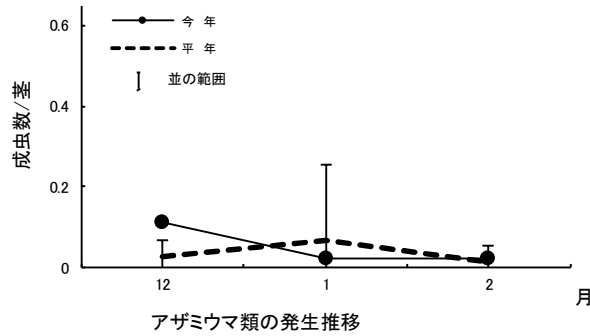
- ・ 多湿条件下で発生するので、不要な下葉、脇芽は除去し、通風をよくする。
- ・ 発病葉は除去し、ビニール袋に入れるなどしてほ場外に持ち出し、焼却などの処分を行う。
- ・ 発生時期には予防散布を行うとともに、葉をよく観察し初期発生を見逃さない。
- ・ 防除効果を高めるため、薬剤耐性菌が発現しないようローテーション散布を行う。
- ・ 栽培終了後は近隣ほ場や次作の発生源にならないよう、不要な株は速やかに処分する。

作物	小ギク(彼岸出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	② アザミウマ類		
2月の発生量(現況)	並		
3月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、2月より発生量は増加すると考えられる。		

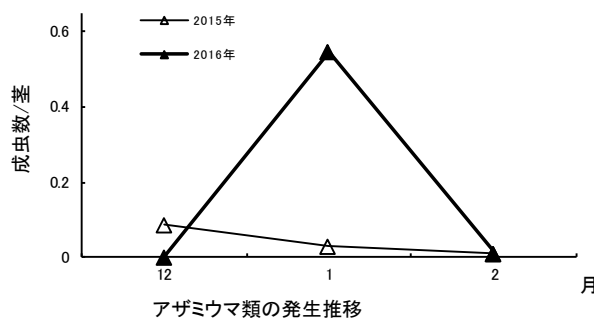
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 2月中旬の調査の結果、茎当たり成虫数は0.1頭未満(前年0.1頭未満、平年0.1頭未満)と平年並であった。
- ・ 発生種は、クロゲハナアザミウマであった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

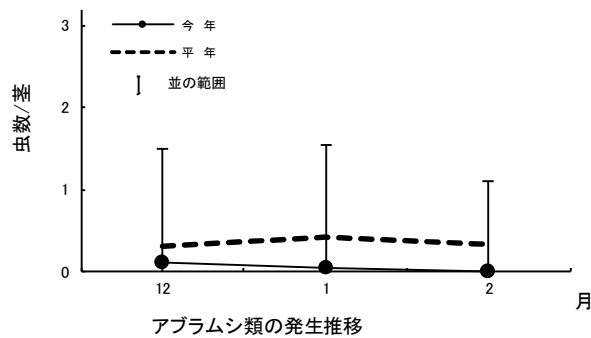
- ・ 成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上～中位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・ 同一ほ場内にあるキクは、異なる品種、異なる生長段階であっても、同時に防除を行う。
- ・ 地際部から新しく出てきた脇芽は、アザミウマが増殖しやすいので、早めに除去する。

作物	小ギク(彼岸出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
2月の発生量(現況)	(発生なし)並		
3月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、2月より発生量は増加すると考えられる。		

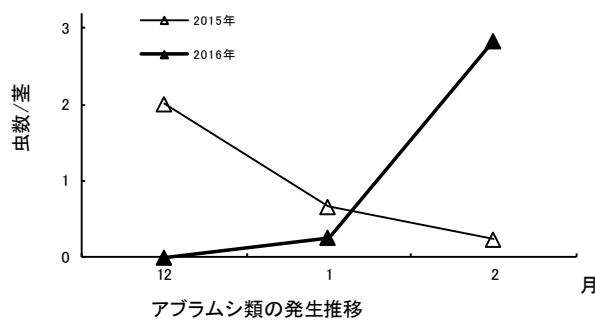
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 2月中旬の調査の結果、茎当たり虫数は0頭(前年2.9頭、平年0.3頭)と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

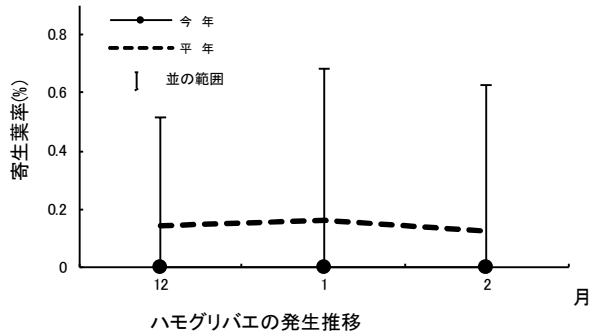
- ・ ほ場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源になるので除草を行う。
- ・ シルバーポリテープを畦上に張り出すか吊したり等して有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ・ 増殖が早いので、新葉や上位葉に多いことに留意し、早期発見・早期防除に努める。

作物	小ギク(彼岸出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ハモグリバエ類		
2月の発生量(現況)	(発生なし)並		
3月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、2月より発生量は増加すると考えられる。		

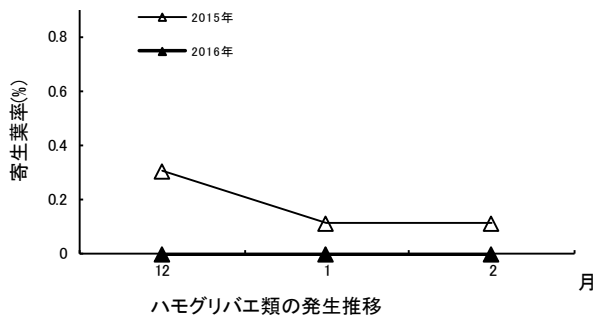
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 2月中旬の調査の結果、寄生葉率は0% (前年0%、平年0.1%) と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

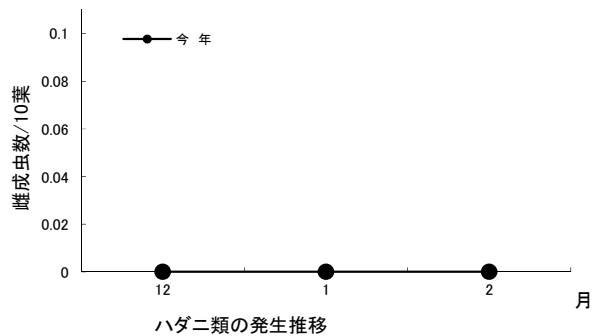
- ・ ほ場内外のウリ科・ナス科・マメ科などの雑草は発生源になることから、除去する。
- ・ 幼虫期間が比較的時間短いため、葉の表面に産卵痕や食害痕がみられたら防除を開始する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 農薬やその他の防除資材の効果の判定は幼虫の体色で判定する。
- ・ 生存時の幼虫の体色は黄色で、死亡すると黒変する。

作物	小ギク(彼岸出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	ハダニ類		
2月の発生量(現況)	(発生なし) 判定不可		
3月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、2月より発生量は増加すると考えられる。		

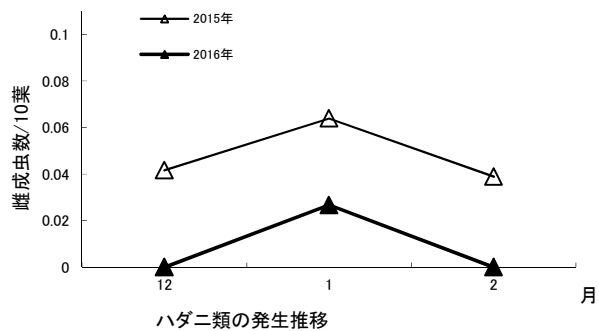
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 2月中旬の調査の結果、寄生葉率は0% (前年0%) であった。

(今年のデータ)



(過去2年のデータ)



防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。